

トスペースボール 試合細則

1. トスペースボールにおけるボールデッドの取り決め

ボールデッドの判定は、主審の判断によりホイッスルを吹いて行う。

主審は、攻撃側（打者、走者）及び守備側を含め「全体のプレーが終了した」時点をボールデッドと判定する。本塁に向けてボールが転送された時点や捕手が捕球した状態ではありません。

2. ボールデッドのタイミング（＝プレーの停止）について

①走者がいない場合

打者走者をアウトにするか、打者走者が次に進塁する塁上または塁付近までにボールが返送され、野手がボールを確保したとき。もしくは打者走者が進塁をあきらめたと判断した時点。

注）打者走者が走塁を継続している場合はプレーが継続される。

注）プレーが中断したと判断しホイッスルが吹かれた後に、守備側で悪送球があった場合の走者の進塁は認めない。

②走者がいる場合

ボールが走者の進塁すべき塁、または進塁を防ぐ塁に返送され、かつ全ての走者が走塁を終えたと判断した時点。

③最終打者(10 番目)の場合

①および②のほか、野球でいうところの2死からの打者として扱い、打者または走者がアウトになった時点でプレーは終了し、攻守交代を行う。

注）ホースアウトの場合、得点は認めない。

但し、タグアウトの場合はその時点前に他の走者がホームベースに触れれば得点となる。

注）三塁から本塁への走者はホースプレイ以外はタグによりアウトとなる。但し、本塁への返球が本塁上で確保され走者の本塁到着を待つ状況なら、接触防止のためアウト認定できる。

3. 注意事項

1) 本大会のルールは全日本トスペースボール協会の規則を適用し、本書取り決め事項の細則により運用する。記載なき事項は公認野球規則・競技者必携(2022)を適用する。

2) 盗塁・バント・インフィールドフライは採用しない。盗塁・バントはアウトとなる。

3) 大人の走者と子供の守備側選手との接触は、安全を図るため大人が回避行動をとる。

①ボールを守備選手(子供)が捕球し、その後に走者(大人)が走りこんだ時、接触し落球した場合は走者「アウト」とする。(2・3 塁の走者駆け抜けは認めない)

②クロスプレイについては、通常タッグプレイ・フォースプレイ等として認められる範囲内にボールが送球・確保され、走者(大人)との接触で捕球できなかった場合は走者「アウト」とする。

③送球されたボールが大きくそれ、タッグプレイ・フォースプレイ等と関係ないと判断した場合は、上記①②は適用しない。

④上記は、大人と子供の接触プレーを回避し、子供の安全を優先に決めたものであるが、危険プレーと審判員が認めた場合には、大人・子供に関係なく適用する。

4. その他

1) 大会の審判は出場チームから3名を派遣し、4 審とスコア担当2名の6名で担当する。

主審が使用するホイッスルは、電子ホイッスルを連盟で準備する。

2) 大人は運動しやすい服装とし、時計や装飾貴金属などはケガ防止のため身に付けない。

靴はスニーカーやアップシューズとし、大人用スパイクシューズの使用は禁止とする。

3) 判定に審議が必要な時は大会本部の連盟審判部に確認し、対処する。

以上